

2025 年 5 月 15 日

愛 知 県 美 術 館

プレスリリース

近代
日本画の
トップ
ランナー

竹内 栖鳳

T A K E U C H I
S E I H O

「西の栖鳳・東の大観」——近代京都画壇の筆頭格として東京の横山大観と並び称された竹内栖鳳は、元治元年（1864）、幕末の京都に生まれました。画家たちが時代に即した新しい絵画を模索していた明治初期、円山応挙や呉春の流れをくむ円山・四条派から出発した栖鳳もまた、伝統の継承だけにとどまらない新しい日本画を描こうと試行錯誤しました。従来の日本絵画の枠組みにおさまらない栖鳳の挑戦は、ときに批判の対象となりました。しかし栖鳳は絶え間ない修練に裏打ちされた抜群の筆技を下地とし、次々と新機軸を打ち出して、伝統の継承と革新の双方を体現していったのです。また、上村松園や土田麦僊をはじめ多くの優秀な次世代を育てました。

明治・大正・昭和を駆け抜け、創作者として先頭を進み、教育者として後進の範となった「近代日本画のトップランナー」竹内栖鳳。本展では、《絵になる最初》（重要文化財 京都市美術館）などの代表作をはじめとする初期から晩年までの作品や資料を通じて、栖鳳の画業を振り返るとともに、その表現世界の多様さをご紹介します。

展覧会名 | 近代日本画のトップランナー 竹内栖鳳

Takeuchi Seiho: A Pioneer of Modern Japanese-style Painting

会 期 | 2025 年 7 月 4 日（金）—8 月 17 日（日）[39 日間]

会期中一部展示替えあり

前期：7 月 4 日（金）—7 月 27 日（日）

後期：7 月 29 日（火）—8 月 17 日（日）

開館時間 | 10:00–18:00 金曜日は 20:00 まで（入館は閉館の 30 分前まで）

休 館 日 | 月曜日（ただし 7 月 21 日 [月・祝]、8 月 11 日 [月・祝] は開館）、7 月 22 日（火）、8 月 12 日（火）

会 場 | 愛知県美術館（愛知芸術文化センター10 階）

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

美術館ウェブサイト <https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

アクセス | 地下鉄東山線・名城線「栄」駅／名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、
オアシス 21 連絡通路利用徒歩 3 分

チケット |

特別前売・平日限定入場券

一般シングル券 1,400 円

一般ペア券 2,600 円

会期中の平日（土日祝日は除く）のみ有効・枚数限定。

※特別前売・平日限定入場券は一般券のみの販売。

※ペア券はご購入時に 2 枚発行。2 枚同日、もしくはそれぞれ異なる日でもご覧いただけます。

[販売期間]

2025 年 5 月 1 日 [木] ～7 月 3 日 [木] 上限枚数に達し次第、販売終了

[販売場所]

Boo-Woo（ブーウー）チケット、ローソンチケット（L コード：45208）、
チケットぴあ（P コード：687-226）、愛知芸術文化センタープレイガイド

通常前売・当日券

一般 1,800（1,600）円

高校・大学生 1,200（1,000）円

中学生以下無料

※（ ）内は通常前売券および 20 名以上の団体料金です。

※上記料金で本展会期中に限りコレクション展もご覧になれます。

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳（愛護手帳）、特定医療費受給者証（指定難病）のいずれかをお持ちの方は、通常料金の半額でご覧いただけます。また、各種手帳（「第 1 種」もしくは「1 級」）または特定医療費受給者証（指定難病）をお持ちの場合、付き添いの方はいずれも 1 名まで通常料金の半額でご覧いただけます。当日会場で各種手帳（ミライロ ID 可）または特定医療費受給者証（指定難病）をご提示ください。付き添いの方はお申し出ください。

※学生の方は当日会場で学生証（生徒手帳）をご提示ください。

[販売期間]

通常前売券：2025 年 5 月 19 日 [月] ～7 月 3 日 [木]

当日券：展覧会会期中

[販売場所]

Boo-Woo（ブーウー）チケット、ローソンチケット（L コード：45208）、日経公式オンラインチケット（イーティックス・オンラインチケット）、セブンチケット、チケットぴあ（P コード：687-226）、イープラス、ART PASS、アソビュー！、主なコンビニエンスストア、主要プレイガイド、愛知県美術館チケット売場、中日新聞販売店など

主 催 |

愛知県美術館、中日新聞社、日本経済新聞社、テレビ愛知

特別協力 |

京都市美術館

後 援 |

JR 東海

展 覧 会

特設サイト |

<https://static.chunichi.co.jp/chunichi/pages/event/seiho/>



問合せ先 |

愛知県美術館 TEL 052-971-5511（代）

みどころ

■京都画壇の筆頭格、竹内栖鳳の画業がひと目でわかる回顧展

明治・大正・昭和と京都画壇の中心であり続け、日本画の近代化を牽引した栖鳳の作品 100 件以上が集まります。栖鳳をまとめて紹介する機会がなかった名古屋で待望の回顧展です。

■初期から晩年までの重要作が出品

《絵になる最初》（重要文化財 1913 年 京都市美術館）や《アレタ立に》（1909 年 高島屋史料館）などの代表作をはじめとする、栖鳳の初期から晩年までの重要作が一堂に集まります。（《絵になる最初》は 7/4～7/21 のみ展示）



重要文化財《絵になる最初》1913 年
絹本着色 京都市美術館【7/4～7/21 のみ展示】



《アレタ立に》1909 年 絹本着色
高島屋史料館【通期展示】

■栖鳳の探究と挑戦の軌跡をトピックで紹介

栖鳳の表現世界をたどるなかで押さえておきたい「古画学習」「高島屋とのパートナーシップ」「人物画」「越前和紙」などにも焦点をあてます。



《雪舟〈山水長巻〉模写》（部分）1890 年 紙本墨画 京都市美術館【前期・後期で場面替え】



《日稼》1917年 絹本着色
東京国立近代美術館【通期展示】



《柳郷清暑》1922年 紙本墨画
福井県立美術館【通期展示】

■名古屋と栖鳳の縁や、再発見の作品も紹介

栖鳳は名古屋で開催された展覧会に作品を出品しています。明治32年（1899）の絵画共進会に出品した作品は、最高賞を受賞しました。大正7年（1918）には、東海美術協会の展覧会に出品しています。このような栖鳳と名古屋の縁についてもご紹介します。また、明治33年（1900）に渡欧した際の見聞を反映した《熱帯風光》（1902年頃）。長らく所在不明だった作品も本展に出品されます。



《熱帯風光》（1902年頃） 紙本銀地墨画
二階堂美術館【通期展示】

■作家紹介

竹内栖鳳（たけうち・せいほう） 1864-1942

京都の料理屋の家に生まれる。本名恒吉（つねきち）。円山・四条派の幸野煤嶺（こうの・ばいれい）に入門、早くから頭角をあらわした。初号は棲鳳。1900年にパリ万国博覧会視察のため渡欧、西欧の芸術の見聞を経て、写生に基礎を置く軽妙な画風を確立していった。西洋絵画を含め諸派の技法を幅広く研究して日本画の近代化を牽引し、横山大観とともに「西の栖鳳・東の大観」と並び称された。文部省美術展覧会（文展）開設当初から活躍、帝室技芸員、帝国芸術院会員、第1回文化勲章受章者となる。京都市立絵画専門学校、画塾・竹杖会（ちくじょうかい）で上村松園（うえむら・しょうえん）、土田麦僊（つちだ・ばくせん）、橋本関雪、福田平八郎ら多数の個性豊かな次世代を育てた。



提供：海の見える杜美術館

■関連イベント

記念講演会①「竹内栖鳳 革新のエネルギー」

〔日時〕 7月5日（土）13:30-15:00（13:00 開場）

〔講師〕 森光彦氏（京都市美術館 学芸員）

記念講演会②「画家と高島屋—知られざる竹内栖鳳—」

〔日時〕 7月13日（日）10:30-12:00（10:00 開場）

〔講師〕 高井多佳子氏（高島屋史料館 研究員）

〔会場〕 アートスペース A（愛知芸術文化センター12 階）

〔定員〕 先着 180 名 ※申込不要・聴講無料。

スライドトーク（学芸員による展示説明会）

〔日時〕 7月12日（土）、7月19日（土）、8月9日（土）各回 11:00-11:40

7月25日（金）18:30-19:10

〔会場〕 アートスペース A（愛知芸術文化センター12 階）

〔定員〕 先着 180 名 ※申込不要・聴講無料。開始時刻に会場にお集まりください。

図録

〔価格〕 未定

〔頁数〕 240 頁（予定）

〔執筆〕 中野悠・由良濯・岩間美佳（愛知県美術館学芸員）、平瀬礼太（愛知県美術館館長）

〔デザイン〕 坂本佳子（大向デザイン）

〔編集・制作〕 ニューカラー印刷株式会社

〔発行〕 中日新聞社

近代日本画のトップランナー 竹内栖鳳

広報用画像申込書

※ご掲載にあたっての注意事項

- ・本展広報用画像の使用は展覧会の紹介を目的としたものに限りさせていただきます。
- ・ご使用可能期間は本展覧会終了までです。ご使用後、申請した画像は必ず破棄してください。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場（「近代日本画のトップランナー 竹内栖鳳」、2025年7月4日（金）－8月17日（日）、愛知県美術館）を明記してください。
- ・ご使用の際は下記のキャプション情報（作家名、作品名、制作年、所蔵者名等）を全てご掲載ください。
- ・画像は全て全図でご使用ください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・展覧会情報の確認のため、校正原稿を以下の問い合わせ先に FAX またはメールでお送りください。
- ・掲載誌（紙）、録画 DVD 等を事務局宛に1部ご惠贈願います。ウェブ媒体の場合は掲載 URL をお知らせください。

ご希望の画像番号： _____

媒 体 名： _____

ジ ャ ン ル： _____

掲載・放送予定日： _____

貴 社 名： _____

ご 担 当 者 名： _____

E - m a i l： _____

所 在 地：〒 _____

電 話： _____

問い合わせ先／校正原稿等の送付先

広報に関すること（担当：齊藤）

展覧会に関すること（担当：中野、由良）

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

TEL: 052-971-5511（代）

FAX: 052-971-5604

E-mail: art11@aac.pref.aichi.jp

近代日本画のトップランナー 竹内栖鳳

広報用画像



1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



8.



9.



10.



11.



12.



13.



14.



15.

1. 《雪舟〈山水長巻〉模写》(部分) 1890年 紙本墨画 京都市美術館【前期・後期で場面替え】
2. 《百騷一睡》1895年 絹本着色 大阪歴史博物館【通期展示】
3. 《虎・獅子図》1901年 紙本金地墨画淡彩 三重県立美術館【通期展示】
4. 《羅馬之図》1903年 絹本着色 海の見える杜美術館【8/5～8/17のみ展示】
5. 《風濤》1918年頃 絹本着色 海の見える杜美術館【前期展示】
6. 《柳郷清暑》1922年 紙本墨画 福井県立美術館【通期展示】
7. 《松魚》昭和前期 絹本着色 株式会社八勝館【通期展示】
8. 《宇佐幾》1939年頃 絹本着色 町立湯河原美術館【通期展示】
9. 《アレタ立に》1909年 絹本着色 高島屋史料館【通期展示】
10. 重要文化財《絵になる最初》1913年 絹本着色 京都市美術館【7/4～7/21のみ展示】
11. 《日稼》1917年 絹本着色 東京国立近代美術館【通期展示】
12. 《小春》1927年 絹本着色 海の見える杜美術館【後期展示】
13. 《秋興》1927年 絹本着色 京都国立近代美術館【通期展示】
14. 《飼われたる猿と兎》1908年 絹本着色 東京国立近代美術館【後期展示】
15. 《熱帯風光》(1902年頃) 紙本銀地墨画 二階堂美術館【通期展示】